

「すてにすてすて又すてすてこそまことの我はあらはるとしれ」

この短歌は、倫理運動の創始者丸山敏雄が、草創期のころ倫理普及の出張先で苦心奮闘していた愛弟子の鳥居武二に、激励の心を込めて送った手紙に添えたものです。

その手紙の冒頭部分には、次のような言葉がしたためられていました。

「さて正しきは、なかなか人が好まずのびにくきもの、しかし一度てつていすればこの上なく強きもの、万代のいしづえをうちたてるもの、と覚悟あるべし。一層はげみいさみて、宣布につくさるべし」

倫理法人会も昭和五十五年十月に千葉県に第一号が誕生してから約三十年が経ちます。

設立当初、「百社百力所」という普及目標を掲げていた倫理法人会は、今日では全国で約七百万所、会員社数も五万社を超えるまでに発展してきました。これは改めて言うまでもなく、倫理法人会役員および会友の皆様の真心溢れる宣布普及のおかげであり、心から感謝申し上げなければなりません。

ところが、その倫理普及の勢いがこのころ若干弱くなっているのは、どうしたことでしょう。政治や経済など、あらゆる経営環境が厳しくなっている今日だからこそ、すべての経営者に倫理法人会が提唱する「倫理経営」を実践していただき、確たる信念を持って、この苦境を乗り越切るために、倫理普及を強力に推し進めなければなりません。

倫理法人会の仲間づくりへの勢いが弱まっているのは、私たち自身の心の中に潜んでいる、さまざまな「弱い心」が表出してきているように思われます。

一つは、自社の業績が良くないのは経営者



真の経営者になる道 己の弱い心を捨てる勇気

映 栗木 え

本物の経営者に近づいていくための鍛錬道であることを自覚し、日々、倫理普及に努めていきたいものです。

要なのです。倫理普及は、己を磨き上げ、本物の人物、

多量の経営者を救済すると共に、今日の日本を創造的に再生していく尊い社会運動ですが、同時にその目的を実現するには、運動に携わる一人ひとりが、先に述べた「弱い心」をはじめとする、己のわがままを捨てることが肝要なのです。

実は、倫理普及という行為は、苦境に喘ぐ多くの経営者を救済すると共に、今日の日本を創造的に再生していく尊い社会運動ですが、同時にその目的を実現するには、運動に携わる一人ひとりが、先に述べた「弱い心」をはじめとする、己のわがままを捨てることが肝要なのです。

四番目は、他人の幸せのために自分の真心を出すことを惜しむ、自分のことしか考えられない利己心の固まりの弱い心です。

最後の弱い心は、普及というある意味での苦難を、そこまですることはないといった怠け心に打ち克てない弱い心です。

これら諸々の「弱い心」は、自分が願う、願わないにかかわらず、すべての生活に様々な形で悪影響を及ぼしていることに、私たちは気づかずにいるのです。